

9月定例教育委員会会議 議事録

平成30年9月27日
午後3時30分開会
さんくす3番館4階大会議室

出席委員

原田勝 教育長
大谷佐知子 委員
福田知弘 委員

谷口学教育長職務代理者
安達友基子 委員

欠席委員

和泉慎次 委員

出席説明員

橋本敏子 学校教育部長
大江慶博 教育監
植田聡 学校教育部次長指導室長兼務
生駒靖子 教育政策室長
由上正幸 教育センター所長
中西多恵子 指導室参事・指導主事

木戸誠 地域教育部長
道場久明 学校教育部次長教育総務室長兼務
落俊哉 地域教育部次長
橋本健一 保健給食室長
前田隆男 青少年室長

記録者

曾我明史 教育政策室主幹

9月定例教育委員会会議 議事録

午後3時30分 開会

原田勝教育長

ただ今から9月定例教育委員会会議を開催いたします。

本日、和泉委員は所用により欠席いたします。

署名委員に大谷委員を指名いたします。

記録者に曾我教育政策室主幹を指名いたします。

本日の傍聴席の数について事務局から説明してください。

生駒靖子教育政策室長

本日の傍聴席の設置可能数は10席でございます。現在の傍聴希望者は1名でございます。

原田勝教育長

それでは、本日の傍聴は10名まで許可したいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

原田勝教育長

異議なしと認め、本日の傍聴は10名まで許可します。

— 傍聴者入場 —

原田勝教育長

それでは、議事日程に従いまして、日程第1 議案第43号「平成30年度全国学力・学習状況調査の概要について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

中西多恵子指導室参事・指導主事

日程第1 議案第43号「平成30年度全国学力・学習状況調査の概要について」御説明申し上げます。

今年度4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査について、今年度は長期休業中に結果を分析し、2学期の教育活動に反映させることを狙いとし、例年より1か月前倒しで調査結果の提供を受け、データの分析を進めてまいりました。

お示ししております結果概要は、本調査の目的を達成するため、本市教育委員会による教育施策の改善、学校が自らの教育活動及び各児童・生徒の全般的な学習状況の改善等に繋げるという視点、及び生活習慣や学習環境等に関する調査についても重視し、教科結果との関わりを分析するという基本的方向に従って作成いたしました。

特に今年度は、小中の繋がりや教科と生活習慣の関係に注目し、分析の配列についても、昨年度のものから、変更しております。

また、全体を通して、平成23年度に開校した千里みらい夢学園の開校前の調査結果との比較も、成果指標として載せております。例年、一定の成果が継続して出ている中で、来年度以降につきましては、分析方法の検討も考えております。

1ページ、「はじめに」におきましては、総合的人間力の育成の視点に加え、次期学習指導要領で求められる力を挙げ、今後の方向性を示しております。

1ページの下段「調査の概要」について、昨年度との違いをお伝えしま

す。今年度は、平成24年、27年に続いて理科が実施されました。また、児童・生徒質問紙の項目も国語に関する質問が全て無くなる等、大幅に縮小されました。逆に追加された項目は「理科に関すること」や「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」といった、次期学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学びに繋がる授業となっているかを問う問題が追加されています。

では、概要作成に係る分析方法について御説明させていただきます。

2ページを御覧ください。学力・学習状況の概要です。

小・中学校ともに、全ての教科で、平均正答率が全国を上回りました。国語は、小・中学校ともに全国の正答率を5%前後上回り、算数・数学は、小・中学校ともに、全国値を10%以上上回る結果で、特にB問題の正答率は全国値よりも高い結果となりました。

理科は、小・中学校ともに全国値をわずかに上回る結果でしたが、前回調査と比較すると、全国値との差は縮まっており、国語や算数と比べると課題があることが分かります。

無解答率は、小・中学校ともに全国値を下回っていますが、小学校国語A、小学校理科の一部で高い問題も見られました。

次に、3ページから12ページは、各教科の概要です。校種・教科別に①正答数分布、②正答率・無解答率、③領域別正答率、④領域別無解答率をグラフで示し、右側に考察を掲載しております。どの観点で見ても、全体的に良好な結果でしたが、本日は課題にも触れながら解説させていただきます。

①正答数分布に着目しますと、理科以外では全国正答数分布折れ線グラフよりも正答数の多い右側部分でパーセンテージが高くなっており、全問正解に近い正答数の児童・生徒が多いことが分かります。

③の領域別正答率を見ると、個別の問題では、一部全国値を下回る部分もございますが、全ての教科、領域において全国値を上回る結果となりました。

④領域別の無解答率におきましては、全体的に全国値よりも下回っていて良好ですが、小学校国語Aと小学校理科の一部の領域で全国値を上回りました。小学校Aの漢字を問う問題、5問の無解答率は全て全国値を上回っており、漢字の読み書きの定着に課題が見られました。

13ページから15ページを御覧ください。ここからは、各教科の問題別正答率や全国値との比較を掲載しております。

16ページを御覧ください。小学校国語における課題が見られる問題を取り上げております。昨年までは、調査結果のまとめの構成としまして、16ページの後に、小学校算数ABと続けておりました。しかし、小学校・中学校と分けて分析するのではなく、小中を繋がりのあるものとして見る効果を考え、今年度は中学校の国語を掲載しております。

小学校の言語領域の無解答率の高さ、中学校の言語領域の正答率の低さなど、様々な視点で分析することで、見える課題と手立てを考察しており

ます。

31ページを御覧ください。中学校数学の課題の見られる問題を示しておりますが、次のページに算数・数学における児童・生徒質問紙を掲載しました。質問紙に関しても昨年までは、最後にまとめて掲載しておりましたが、教科の検証に併せて、児童・生徒の質問に対する回答を付けることにより、何を改善すべきかが考えやすくなることを意図しております。

算数・数学の質問紙では、学習を普段の生活に活用できないかを考える質問や将来に役立つと思うかを問う質問で、小中ともに大きく全国値を下回りました。正答率は全国と比べ大きく高い本市ではありますが、子供達の意識は、実生活に結び付くものになっていない傾向にあることが分かります。

35ページからは、理科についてです。42ページ、43ページを御覧ください。「理科は好きですか」、「生活の中で活用できないか考えますか」、「将来役に立つと思いますか」など、全ての質問で全国値を下回っております。

43ページ下段、実験の頻度を問う質問（中学校）においては、週1回以上、月に1回以上と回答した生徒の割合は全国と比べ22.6%下回り、課題が見られます。

47ページからは、「自分自身のことについて」、「家庭生活・地域社会について」、「学校生活・学習について」といったカテゴリーで、児童・生徒の回答状況をまとめております。また、教科の分析同様、それぞれ「現状及び経年比較」から見られた課題について、「改善・向上のために」として学校、家庭の具体的な改善方策を掲載しました。

全国値と比べて課題に感じる質問は、49ページ「役に立つ人になりたい」、52ページ「自分で計画を立てて勉強をすること」、53ページ「予習復習の頻度」、56ページ「ニュースを見る頻度」、57ページ「社会の出来事に関する関心」、59～61ページ「主体的対話的で深い学びを目指した授業」に関する質問に課題が見られました。

最後の62ページには、次期学習指導要領も踏まえ、本市の学力向上のための主要な視点として、9年間を見通した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり、「授業規律、生活規律の確立」、「習熟度別授業等、一人ひとりに応じたきめ細かな指導」、「自学自習力の育成」の4項目にまとめ、授業改善等、今後の方向性を示しました。

続いて、結果公表について御説明申し上げます。昨年同様、教育だよりにて調査結果の概要等を掲載し、発信を行う予定としております。ホームページにも掲載します。各学校に対しても、本市の分析結果も参考にした上で、自校の分析を進め、取組の成果や課題を明らかにし、2学期以降の教育活動に生かすとともに、プリントやホームページを活用し、保護者、地域に対しても説明を行うよう指示しております。

最後に、次年度の全国学力・学習状況調査についてお知らせします。A問題B問題という分類を無くして統合した問題とすること、中学校ではス

ピーキングテストを含む英語が実施されることが決まっております。参考としてお知り置きください。

以上で「平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要及び公表について」の御説明とさせていただきます。御審議いただき、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、この件について、何か御意見はございませんか。

「無解答率」について、毎年注目しているようですが、昨年度と比較して今年はどうでしたか。

昨年度は、中学校の全ての項目で全国値を下回っています。しかし、小学校国語Aでは全ての領域で全国値を上回っており、課題が見られました。今年度は、小・中学校ともに全国値を下回っていますが、小学校国語A問題と小学校理科の一部の領域で無解答率が全国値よりもやや高いものが見られました。今後も、各校での分析も参考にしながら、市としての対策をまとめ、無解答率減少に努めて参りたいと考えております。

昨年度課題であった「自学自習力」についてはどうでしたか。

52ページを御覧ください。昨年度も課題であった「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目についての肯定的回答は、小学校では前年度と比べて0.3%増えており、中学校では0.9%減少しております。ただ、全国値を下回っている状況は変わっておりません。

53ページを御覧ください。「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。」という設問が新設されましたが、小学生、中学生ともに、全国値には届いておりません。

今後も「自学自習力」の育成のために、個に応じたきめ細かな指導、日常的な補充学習等、児童・生徒の学習のつまずきを解消する取組、家庭学習の取組の継続が必要だと考えています。

理科の課題については、どのように考えていますか。

42ページから46ページを御覧ください。理科の正答率は、全国と比較して、上回ってはいますが、差が前回よりも縮まる結果となっております。特に、理科に関する質問紙の多くの項目で、全国値を下回っております。「理科の勉強は好きですか。」という質問に関しては、小学校から中学校にかけて、肯定的回答の割合が減少しております。また、「理科室で観察や実験をどのくらい行いますか」という質問に対しても、小学校では全国値を上回っていた肯定的な数値は、中学校で減少し、全国値を大きく下回っております。

ただ、中学校において「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる」、「観察や実験の結果から考察する」という項目については、前回、前々回よりも大きく上回るようになっており、主体的に学ぶ方向性にはあることが分かり、実験を行う機会の一層の確保に努めるよう、学校にも働きかけていきます。

「はじめに」にもありますが、次期学習指導要領で変わるポイントを詳しく説明して下さい。

原田勝教育長
福田知弘委員

中西多恵子指導室参事・指導主事

大谷佐知子委員
中西多恵子指導室参事・指導主事

原田勝教育長
中西多恵子指導室参事・指導主事

谷口学教育長職務代理者

中西多恵子指導室参事・指導主事

子供達が未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成し、その際、子供達に求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」が重視されています。また、知識理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」により、何のために学ぶのか、何ができるようになるかを明確化し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することを目指すこととされています。

谷口学教育長職務代理者

今回、この調査にあたって色々質問事項を変えたということですが、次期学習指導要領に関わって、今年度の調査の新たな変更点があれば説明してください。

中西多恵子指導室参事・指導主事

59ページ、60ページを御覧ください。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」という設問が新設されました。

それぞれの現段階での肯定的回答は、1問目は小学生では76%、中学生では72.6%であり、2問目については、小学生では59.4%、中学生では55.9%であり、それぞれ全国値を下回っており、今後の課題であると捉えており、次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に繋がるよう、さらに推進していきたいと考えております。

大谷佐知子委員

各学校の結果は昨年同様、保護者・地域に伝えるのですか。

中西多恵子指導室参事・指導主事

本市の調査結果の概要を公表しましたら、各学校の分析結果については、今年度は結果の提供が早まったこともあり、11月半ばをめどに、学校だよりや学校のホームページにて、保護者・地域に公表することとしています。教科の調査結果の分析については、全国との比較は数値を示さず文章表記します。あわせて、成果と課題、指導改善のポイントも分析します。生活習慣や学習環境についても分析を行い、今後の取組として、学校での取組と家庭への協力依頼についても、記載しています。また、保護者や地域の協力を得るため、学校ホームページなどの活用や保護者会や地域教育協議会への発信、また、個人懇談や進路懇談等への活用も指示しています。

安達友基子委員

家庭生活については、昨年度より、改善は見られますか。

中西多恵子指導室参事・指導主事

51ページを御覧ください。「毎日朝ご飯を食べている」と答えた子供は、前年度と比べると減少し、全国値も下回っており、食の大切さの再確認が必要です。

52ページの、「授業時間以外に勉強をしている時間」は前回調査と比較して、小・中学生ともに向上しておりますが、小学生は全国値をやや下回り、中学生は大きく上回っております。

54ページの「読書を全くしていない」との回答は前回よりも減少しており、向上が見られます。小学校に読書活動支援員が全校配置されたことも、要因のひとつであると考えられます。

「新聞を読んでいる」率は年々減少していますが、テレビやインターネ

ットのニュースを見ていると回答している率は、小・中学生とも微増しています。

安達友基子委員

子供達自身が自分のことをどう思っているのかは読み取れますか。

中西多恵子指導室参事・指導主事

48ページを御覧ください。「自分に良いところがある」と肯定的な回答をしている小中学生は、昨年度を大きく上回っており、自尊心が高くなってきているということが読み取れます。「将来の夢や希望」についての肯定的な回答をしている割合は、小学生の時と比べて中学生で下がる傾向にあり、各中学校ブロックで作成した、キャリア教育プログラムを活用し、小中を通じて生き方を考えていく指導が必要です。「人の役に立つ人間になりたい」という割合は高く、特に小学生は全国値を大きく上回っております。

原田勝教育長

他に御意見はありませんか。

全委員

異議なし。

原田勝教育長

異議なしと認め、議案第43号「平成30年度全国学力・学習状況調査の概要について」を承認します。

原田勝教育長

次に、日程第2 議案第44号「平成29年度（2017年度）実施事業 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書の作成について」を議題とします。

事務局の説明を求めます。

生駒靖子教育政策室長

日程第2 議案第44号「平成29年度（2017年度）実施事業 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書の作成について」教育政策室より御説明申し上げます。

教育委員会の事務の点検・評価につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき義務付けられているものでございます。

本報告書は、年度ごとに重点を置いて実施する重点項目、今回は15項目に沿いまして、教育委員会の主要な事務事業の点検・評価を行った結果をまとめております。報告書の概要を簡単に御説明いたします。

まず、表紙裏面を御覧ください。目次となっております。

1ページを御覧ください。こちらには、「はじめに」といたしまして、本市の教育及び報告書の概要をお示ししております。

裏面2ページは中間見直し後の教育ビジョンの体系図でございます。網掛け部分が15の重点項目となっております。

次に3ページにつきましては、点検・評価の見方としており、その後の4ページから40ページにわたり、15の重点項目についての点検・評価として取りまとめております。

それぞれの内容につきましては、学識経験者からの事務局に対するヒアリング及び教育委員の皆様との懇談以降、修正がありましたが、大きな変更はございませんので、本日は省かせていただきます。

続きまして、41ページ、42ページを御覧ください。

教育委員会の活動状況としまして、委員名簿及び教育委員会会議、総合教育会議、行事視察等についてまとめております。昨年度間もこのように

様々な活動により、多くを御支援いただきました。ありがとうございました。

次に、43ページ、44ページにつきましては、学識経験者から事務局に対するヒアリングにおいて、頂いた御意見や御助言を中心にまとめております。

最後に45ページ以降につきましては、巻末の参考資料でございます。

46ページから50ページにつきましては、用語解説を掲載しております。

また、51ページから53ページにつきましては、教育大綱、教育予算の推移、教育委員会事務局組織図を掲載しております。

以上が平成29年度の報告書の概要でございます。

よろしく御審議いただき、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、この件について、何か御意見はございませんか。

異議なし。

異議なしと認め、議案第44号「平成29年度（2017年度）実施事業 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書の作成について」を承認します。

それでは、これをもちまして本日の議事日程を終了いたしましたので、9月定例教育委員会会議を閉会いたします。

原田勝教育長
全委員

原田勝教育長

原田勝教育長

閉会 午後4時1分